

令和5年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

教育目標	《建学の精神》
	質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和と統一のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす
	○社会の変化に柔軟に対応し、生きる力と豊かな心を育む教育 ○互いの立場を尊重し、生徒・保護者・教師がともに幸せになれる教育

今年度の重点目標	『教育理念の確実な取り組み』
	1, 「5J」の浸透と具現化 (①自主 ②自律 ③自覚 ④実践 ⑤自治)
	2, 「鳥取城北生5つの誓い」励行 ①さわやかな挨拶をします ②礼儀正しい服装や言葉遣いをします ③人を大切にし自分を大切にします ④学ぶ姿勢を大切にします ⑤自ら考え責任ある行動をします
	3, 目指す教師像に関連し、積極的な授業改善を行う。 4, 目指す学校像に関連し、しっかりとした進路保障を行う。

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価		
		現状 (R4年度実績)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善点等
学力強化	1-③ 生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。	学習時間調査結果(1日の平均) 1年生:95分→113分、2年生:112分→115分 3年生:129分→130分 到達度テスト正答率 研志(1年:55.3% 2年:31.7% 3年:27.4%) スポ科(1年:43.1% 2年:43.9% 3年:33.8%) 生徒アンケート 主体的に授業に取り組めたと回答した生徒が全体の93.2%と高かった。学習時間は昨年度とあまり変わらなかった。	・スタディサプリ到達度テスト正答率50%達成 ・年度当初と比較して、家庭学習時間が増加している	・スタディサプリの活用およびテスト結果に基づく苦手克服を実施 ・課題配信、定期考査範囲への設定、長期休業中の課題として活用する。 ・実用英語技能検定の取得を目指し、Monoxerを活用することで学習時間の増加を促す。 ・定期的に学習時間調査を実施し、学習時間を把握する。 ・プラスアルファや放課後の時間を利用して学習習慣をつける。	学習時間調査結果(1日の平均) 1年生:113分→125分、2年生:115分→141分 3年生:129分→133分 到達度テスト正答率 研志(1年:55.6% 2年:32.1% 3年:30.5%) スポ科(1年:44.2% 2年:45.4% 3年:36.7%) 生徒アンケート 主体的に授業に取り組めたと回答した生徒が全体の94.0%と高かった。日々の学習時間確保が伸びてきている。	B	各学年ともに、学習時間が伸びてきている。さらなる充実が必要となる。Chromebookの使用法用途の明確化や活用方法なども検討していく必要がある。
進学指導	1-③ 生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	3年生:現浪合計国公立大学39名合格(うち、鳥取大学レベル13名合格) 難関私大17名合格 * 関関同立、GMARCH、早慶上理ICU 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上55名(昨年度1年生1月46名) 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上30名	3年生:現浪合計国公立大学40名合格(うち、鳥取大学レベル30名合格) 難関私大10名合格 *関関同立、GMARCH、早慶上理+ICU 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上55名(昨年度1年生1月46名) 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上30名	・教科指導力向上のための研修を促進する。 ・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・鳥取大学及び公立鳥取環境大学との連携を積極的に行い、地元大学への進学意識を高める。 ・進路面談を積極的に行う。 ・2年生合宿・3年生合宿、栄光塾合宿を実施する。 ・実用英語技能検定の取得を促す。	3年生:現浪合計国公立大学29名合格(うち、鳥取大学11名合格 難関私大11名合格) *関関同立、GMARCH、早慶上理+ICU 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上43名(昨年度1年生1月46名) 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上33名	B	・進路LHRの充実 ・総合的な探求の時間の充実 ・講演会やワークショップなどの実施 ・教科指導力の強化 ・教員研修の実施
就職指導	1-③ 全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就労意識を構築し、第1志望内定率を上げる	・内定率100%達成(2月上旬) ・第1志望内定率88.9% [27名中24名内定] ・公務員合格率83.3% [6名中5名合格] ・自己縁故就職12名 ・進路変更(進学へ)3名	・「内定率100%」を早期に実現(1月中旬まで) ・第1志望内定率80%以上(就職希望者:33名) ・公務員模試・就職模試等 ・公務員対策サポート講座	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化。 ・インターンシップ・企業説明会・企業見学・アルバイト・様々な職種の講話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等 ・公務員対策サポート講座	・内定率95.8%達成(3月上旬) ・第1志望内定率91.4% [35名中32名内定] ・公務員合格率70.0% [10名中7名合格] ・自己縁故就職6名 ・その他計画あり(資格取得、プロ選手)6名	B	・ハローワークとの連携を強化。 ・インターンシップ・企業説明会など様々な職種の講話の実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等。 ・将来を見据えた進路指導。
生徒指導	1-① 頭髪服装規定を理解させ、主体的に身だしなみを整えることを通して規律ある生活習慣を身につけさせる。	服装頭髪を正すことや、遅刻しないように時間を守ったり、校則や交通安全ルールを守って学校生活を送ることができている割合が「90%以上」とポジティブの回答が大半でほとんどの生徒は規範意識を持ちや基本的な生活習慣は確立された。	日常の中で、規範意識を持ちながら5Jを実践し自らの姿を正しくつくりあげることができる。 頭髪服装指導により身だしなみを整える。校則や交通ルールを守って学校生活を送る生徒90%	身だしなみチェックを活用しながら、日々指導の積み重ねを大切にす。 着こなしセミナーの開催など外部機関と連携し強化を図る 違反者への段階的指導を徹底しておこなう。必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。	アンケート項目の服装頭髪を正すことや、遅刻しないように時間を守ったり、校則や交通安全ルールを守って学校生活を送ることができている割合が「90%以上」とポジティブの回答が大半でほとんどの生徒は規範意識を持ちや基本的な生活習慣は確立された。また、ほとんどの生徒が不安のない学校生活を送れた。	A	一部の生徒による身だしなみの乱れや、遅刻指導者に対して早期指導の重点強化。また、学校外でのモラルやマナーについて改善。自転車利用者のヘルメット所持率は高いが着用率が低い為、徹底していくことが必要。
生徒会	1-③ 生徒主体の生徒会活動を活発にさせる。	学校評価生徒アンケート「学級役員の活動や学校行事を通して、生徒会活動への参加意識が高まった。」 ポジティブ回答が71.6%と前回アンケートより増えた。昨年度に比べても上昇した。 学級委員を活発に動かしたり、生徒会執行部が中心となり、あいさつ運動に力を入れたりと全校の生徒会参加意識が高まったのではないかと考える。	生徒会活動(学級役員)への参加意識が高まったとあてはまる・だいたいあてはまると感じた生徒 75% 生徒の愛校心が育まれる	・生徒会執行部会を毎週実施する。 ・校内放送・掲示板を活用し、生徒会活動のPRや啓発を継続的に行う。 ・分掌と連携し、生徒の愛校心を育むような取り組みをする。 ・各クラスの学級役員に働きかける。 ・部活動とクラスでのあいさつ運動を実施する。 ・各種委員長の選出方法を変更する。	アンケートより、生徒会活動参加へのポジティブ回答が73%と前回アンケートより2.7%増えた。目標としていた75%にあと少し届かなかったが、一昨年度、昨年度と年々上昇している。 生徒会執行部が中心となり、毎日の放送やあいさつ運動に力を入れたことで、全校の生徒会参加意識が高まったのではないかと考える。	B	・校内放送を活用し、生徒会活動のPRや啓発を継続的に行う。 ・分掌と連携し、生徒の愛校心を育むような取り組みをする。 ・新たな良い風土をつくような取り組みを提案する。
人権教育	1-② 人権教育LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。	人権問題に対する考えが深まったと回答した生徒が94.3%であり、中間評価時の95.1%より若干下がったが目標は達成された。	生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・人権教育LHRを充実させると共に、日常のあらゆる場面において生徒の人権に対する意識を高める。 ・クラスの実態に即した目標設定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。	アンケートの全項目が前回のアンケートより上昇した。2学期の学校公開授業を含む3回の人権LHRの充実の結果だと判断できる。特に3年生は人権LHRへの参加の項目が95.8%と上昇し、最終学年として人権問題を自分のことと捉えて学習している様子がうかがえる。	A	コロナ禍により外部講師を招いての講演会の実施を数年行っておらず、今年度も実施しなかった。来年度は1年生に対し、2学期の第3回に実施し、今後の多様性社会における様々な人権問題について考えさせたい。
ICT推進	3 4 ICTを活用した教育活動を推進するため、生徒教員ともにICTスキルを高める。	アンケートで、平均が3.2点 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	Google ClassroomをはじめとしたGoogle Workspace for EducationやMonoxer、ロイノートなどのアプリを、授業と家庭学習において活用できるようになっている。	・ICT推進リーダーの教員が活用セミナーを受講し、そのスキルを学年や教科で共有するための研修などを行う。 ・ICT活用をテーマとして研究授業を各教科で実施する。	アンケートで、平均が3.3点 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B	ICTの具体的な使用場面を教科主任会・教科会で検討し、教員間で教え合いをしながらスキルを高められるような組織作りを行う。校内外での研修の推奨や、さまざまなアプリの活用結果報告など、ICTに関する情報発信をさらにしていきたい。
授業向上	3 4 生徒を伸ばすために教員の授業スキルをさらに高める。	アンケートで、平均が3.2点 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	教材研究や指導法研究を常に意識し、年度当初に比べて自らの教科指導力が向上したと実感できている。	・ファインドアクティブラーナー等を活用し、教員個々および教科会で授業方法の研究を行う。 ・研究授業、授業見学を通して、互いに研鑽し合う。	アンケートで、平均が3.3点 (A:4点, B:3点, C:2点, D:1点)	B	教科主任会・教科会を軸にして、研究授業や授業参観の機会を利用して授業スキルアップに努める。各種研修を積極的に利用して、研鑽する。